

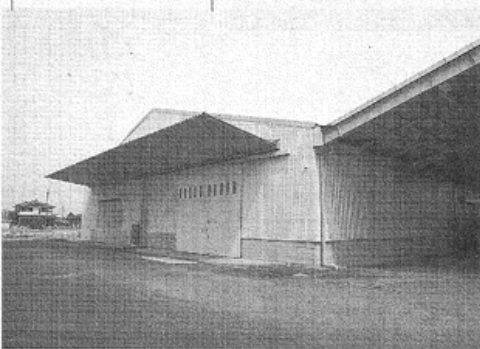
# 鈴鹿市に営業所

トラック運送と倉庫業の総合物流を手掛ける中田商事(本社伊賀市荒木野々浦893の1、中田純一社長、電話059・266・3535)は、鈴鹿市に営業所を開設した。合計2千平方メートルの倉庫を併設し、貨物の保管から輸送までを一貫して対応。製造業など旺盛な物流需要の取り込みを狙う。また、拠点拡充による優秀な人材の獲得にもつなげたいと考えた。

(三重・樹田宏行)

## 総合物流の 中田商事

大型倉庫を備える



鈴鹿営業所の住所は鈴鹿市寺家7の28の15で、国道23号線沿い。敷地面積は約5460平方メートル。倉庫面積が1千平方メートル前後の倉庫が2棟ある。雨天時でも荷役作業が可能な屋根付きの荷さばき場の広さは約600平方メートル。ウイング車をはじめ、自動車輸送用のキャリアカー、平車など30〜20トンの自社車両をそろえる。フォークリフトも完備する。ドライバー職や事務職ら計1人輸送トラック5台体制で、6日から営業を始めた。

同社の営業拠点は本社、四日市営業所(四日市市)に次いで3カ所目。鈴鹿営業

## 保管から輸送まで一貫対応

鈴鹿営業所で運用する大型ウイング車



所長の井久保順也取締役は、同市に営業拠点を設けた理由について「周辺は自動車部品メーカーなどものづくり企業が多数集積しており、物流需要がある。人口が多く、人材確保の面でも期待できる」と話す。

まずは日用品の配送から始める。ゆくゆくは、自動車部品の金型や工作機械関連など重量物輸送にも対応する。中継地点として入荷した貨物を即座に仕分けし配送先へ積み替える「TC型サービスマ」の提供にも力を入れる方針。

中田社長は「鈴鹿営業所の売り上げ目標は、全体の2割弱を目指したい」と話している。

鈴鹿営業所には、他の拠点と同様に、トラック乗務前の点呼をロボットに代替する「ロボット点呼」を導入。運行管理業務を効率化させている。

1995年創業。26年3月期の売上高は約7億円。従業員は約80人。